

# 保倉進さん

1923(大正12)年4月27日生まれ

陸軍 船舶兵

船舶幹部候補生隊、海上輸送第16大隊

セブ島、内地(豊浜、山口)



## ●1943(昭和18)年12月 学徒出陣

早稲田の法学部に在学中、徴兵延期がなくなり出征する事になった。いつか俺たちも死ぬのかなと話した。10月21日明治神宮外苑の壮行会に出席、東条英機が演説した。陸軍、海軍の希望は言えない。大学ではグライダー部に入っていたが、目が悪いの飛行機には乗れなかった。

## ●1944(昭和19)年1月～4月 フィリピン・セブ島・リロアンで幹部候補生教育

太平洋戦争で陸軍でも船を持とうと、昭和18年初めて船舶兵という兵種が出来た。将校を育てないといけないと船舶幹部候補生隊が作られた。物資輸送が任務で、兵隊や武器、食糧の海上輸送にあたる。幹部候補生に合格、基礎教育はセブ島で行われた。操舵、大発・小発の操作、手旗信号、上陸訓練など。当時のセブ島は、制空権、制海権もまだあつてのんびりしていた。情報は無いし、ニューギニアやビルマの事は知らない。そのうち戦争もやるのかなぐらいの感じ。ただ敵機は来るので、船をヤシの木陰や崖の下に隠す。当番で監視をする。食糧も内地よりはよくて、キャラメルとかも持っているの、現地の子どもにあげたりした。

## ●1944(昭和19)年4月 内地に戻り、香川県豊浜の船舶幹部候補生隊で9か月の教育

## ●1944(昭和19)年12月 卒業 見習士官に 海上輸送第16大隊に

民間から徴用した機帆船に乗船。下関から釜山の物資輸送にあたる。昼間はグラマンが来ているので、夜しか動けない。夜壱岐・対馬に着いて1晩泊まって、朝釜山に行き、荷物を積んで島に来て、昼間は隠れている。夜になってまた下関に帰って来る。高粱米などを運んだ。

## ●グラマンの攻撃で部下が亡くなる

釜山から荷物を積んで、夜、下関に向かった。グラマンが来て、空中に照明弾を落とす。真夜中だけど字引の小さな字が読めるぐらい明るい。爆弾は当たらなかったが、機帆船のスクリューが曲がって時速7キロぐらい。対馬海峡を流されてしまう。グラマンが旋回して何回も何回も来る。機銃掃射をばーっとやる。我々は三八式歩兵銃3丁しかない、撃てと言っただけ当たるはずないですよ。アメリカ兵の操縦士が見える。グラマンの撃った機銃の1発が部下の1人に当たって貫通銃創。出血多量で、手当といっても包帯と赤チンぐらいしか無い。血がどんどん出て、顔色が悪くなって、どうする事も出来ない。山口に着いたのは8月の12日頃。船中で死んでしまった。船と一緒に徴用されてきた民間人のクルーだった。

## ●1945(昭和20)年8月15日 敗戦

お寺に行って、茶毘に付したいと交渉しているうちに、街で天皇陛下の放送があると。海辺にラジオを引いてきて部下の下士官と聞いたがガーガーいって分からない。荷物を降ろして、下関の本部に報告に行く。将校用のピストルの弾を2発支給された。亡くなったのは石巻の人。茶毘に付した遺骨を石巻にもって行かせて、戦死公報を書いた。

## ●戦後は復学、米軍の憲兵司令部で通訳のアルバイト

戦前、戦後の両方の法律、憲法を勉強することになった。米軍の憲兵司令部(第720憲兵大隊)で通訳のアルバイトをする。事務所は日比谷交差点の角でマッカーサーが見える事があった。ここは都内の米軍の取り締まり、闇のタバコやウイスキー、売春などを取り締まっていた。

戦局が悪いのを知っていながら若い人をどんどん戦争に送った。その日本のシステムは狂ってた。情報はオープンにして誰でも言えるようにしないとイケない。

(取材日 2018年4月29日)